

序文

本年も、日本造血細胞移植学会全国調査報告書を作成し、皆さまにお届けすることができました。この報告書は、一例一例症例を積み重ね、多忙な中登録をして頂きました学会員とその補佐員、並びに膨大なデータを解析し纏められた日本造血細胞移植データセンターの皆様のご努力の結晶であります。皆さまに深謝いたします。年々厚くなっていくこの本は我々の歩んできた誇るべき歴史であり、将来への道標となるものであります。

近年の移植数の動向を概観しますと、右肩上がりに増加してきた移植数が2015年をピークに頭打ちになる可能性が見えてきました。これは本邦の人口動態が減少に転じたことが一つの要因と考えられます。すなわち成長期から円熟期へと入った日本社会の変化を反映しているのでしょう。今後我々は社会の変化に柔軟に対応できる強靱な移植医療体制を確立していく必要があります。その一環として、臍帯血移植やHLA半合致移植の増加がみられています。このように、報告書は過去から現在までの多くのことを語り、将来を俯瞰してみせてくれます。

このように移植登録はわが国の造血細胞移植の歴史の記録であるのみならず、その成果を解析するための貴重なデータベースでもあります。学会ワーキンググループを通じ、多くの成果が報告され、そのアクティビティは、米国のCIBMTR、欧州のEBMTRと並ぶ、世界3大レジストリーとして国際的にも認知されています。学会員を代表し、日本造血細胞移植データセンターの皆様に敬意を表します。一方、学会員の皆様におかれましては、このデータを活用し、わが国のみならず、世界の造血細胞移植の成績向上を目指して、さらに活発に研究活動を展開されることを願います。

最後に、移植成績は決して単なる統計数字ではありません。これは一例一例の患者さん、ドナーと家族、移植医、その移植に携わった多くの医療スタッフの努力の積み重ねが40年の歳月をかけてなした結晶であることを、本書を使用される会員の皆様、更には移植成績を解析される方々に本書を手にとる度に是非思い起こしていただきたいと願うものです。

第40回日本造血細胞移植学会総会会長 豊嶋 崇徳
北海道大学 血液内科